

地域生活ケア論 (子ども)

[講義] 1年・2年 後期 選択 15時間 1単位

《担当者名》○福間麻紀[m-fukuma@hoku-iryo-u.ac.jp]
木浪智佳子[kinami@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

現代社会における子どもや家庭が直面する課題について理解し、それらの課題の解決に向けて、子どもを主体とした子どもの権利保障を基盤とする支援を検討する際の視点や実践的な方法論を修得する。

【学修目標】

- ・現代社会における子どもと家庭を取り巻く問題とその背景、子どもへの影響について説明できる。
- ・医療を必要とする子どもと家族への支援について検討できる。
- ・子どもや家庭の課題に対する医療・福祉制度やサービスについて、具体的な事例への活用を説明できる。
- ・子どもの権利と子どもの生活を守る仕組みについて考えることができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	現代社会における子どもの課題	現代社会において子どもが直面する問題や取り組む課題について概観する 子どもの権利を保障する取り組みについて検討する	福間 木浪
3) 4	医療を必要とする子どもとその家族への支援	医療を必要とする子どもとその家族への支援及び医療的ケアを必要とする子どもの地域での生活を支える支援についてディスカッションする (各自が調べた具体的な支援についてプレゼンテーション)	木浪 福間
5) 6	子どもを守る仕組みとしての制度・サービス	子どもの貧困や虐待の予防や対応を含む、子ども・家庭にかかわる制度やサービスを理解したうえで、子どもを守る仕組みについてディスカッションする (各自が調べた具体的な支援についてプレゼンテーション)	福間 木浪
7	学齢期の子どもの現状と支援	学齢期の子どもの問題(いじめ、不登校)に対する学校を含む地域を基盤とした支援についてディスカッションする (各自が調べた具体的な支援についてプレゼンテーション)	福間 木浪
8	地域における子どもと家族への支援	具体的な事例を念頭におき、これまでの講義内容をふまえた、各自が考える子どもと家族への支援について発表及びディスカッションを行う	福間 木浪

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

プレゼンテーション(30%)、準備・参加状況(30%)、課題レポート(40%)

【教科書】

なし

【参考書】

適宜紹介する

【学修の準備】

各テーマに関連する文献や報道資料などを読み、ディスカッション・プレゼンテーションの準備をすること

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

<看護学専攻>

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

<臨床福祉学専攻>

本科目の内容は、臨床福祉学における高度な専門性と研究能力を修得するという臨床福祉学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

福間麻紀（社会福祉士）、木浪智佳子（看護師）